

第七十八回一宮市芸術祭参加

## 第68回 一宮支部展

支部次長 村田光 終

▼会期 令和五年十一月二十五日(土)～二十六日(日)

▼会場 一宮スポーツ文化センター



天候に恵まれ、第68回一宮支部展が十一月二十五日二十六日の両日、開催されました。

一六四名の支部先生方からご出品頂き、本部からは、理事長の伊藤仙游先生、副理事長の岡野楠亭先生、同加藤裕先生、同松下英風先生、同横井宏軒先生の賛助出品を賜りました。フューチャーズでは団体出品として、弥天塾、麗筆会の二団体。個人出品は、村上支部長社中から二名、横井静嘉

先生社中から一名のご出品を頂き、各先生方のご尽力ご協力に心より感謝申し上げます。

本年度から作品の搬入搬出作業はコロナ禍以前のように出品者様全員参加のお願いとなりました。先生方の手際良いご協力のお蔭でスムーズに作業が運び、六つの展示室は素晴らしい多様な作風に満たされ、ご来場者様におかれましても書芸術と触れ合える良き機会であったことと思います。

また二十六日には、昨年度より再開されましたギャラリートークも行うことが出来、本年度は相談役の林大樹先生がお話をしてくださいました。

漢字書体の変遷から始まり、行書や草書体の用筆の母体は漢代の隸書であること、さらにその隸書体の具体的な用筆（逆入平出法）についてご教示いただきました。時代を経て王羲之や顔真卿の用筆並びに表現法の違いにも触れられ、私たちの作品制作や指導法に活かせる内容でした。現代に至っては、関東（碑学派）、関西（帖学派）主団体の書風の相対的な方向性について、また翠軒流の

用筆観点等、先人の楽しいエピソードも交えて、とても興味深い内容で、多数の聴講者様も真剣に聞き入っていらっしやいました。書面では、大まかにしか記せず申し訳なく思っておりますが、このような有意義な一時を過ごすことができました。相談役の先生方には、来年度もご教示の程宜しくお願い申し上げます。

次回の69回展は、支部創立70周年の記念展と同時開催となり、記念企画の展示が加わる予定となっております。一宮支部の益々の発展を祈念すると共に、ご出品ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

